

令和7年度

岩泉町立岩泉小学校報

令和7年度 第8号



しずがわ

令和7年10月28日

文責 校長 宮本 和典

まなびフェスト(学校の取組) 中間評価

<数値の見方>

児童…まなびフェストに掲げられている項目の評価指標の達成状況 n=163

教職員…まなびフェストに掲げられている項目についての取組に対する評価(肯定回答の割合)n=20

保護者…まなびフェストに掲げられている項目についての学校の取組に対する評価(肯定回答の割合)n=79

1 「みずから学ぶ子ども」

※網掛けは目標未達成

No	項目	児童	教職員	保護者
1	主体的に学習に取り組む児童を育てる授業づくりを推進します。 ※児童アンケート「授業では、進んで学習に取り組んでいますか。」の肯定評価 90%以上	94	80	92
2	学年に応じた家庭学習の習慣を身に付ける取組を行います。 ※家庭学習定着週間がんばりカードの自分のめあて達成率 80%以上	92	75	94
3	本に親しみ、望ましい読書習慣を身に付ける取組を充実させます。 ※読破目標達成率 80%以上(1,2年 70冊,3,4年 50冊、5,6年 30冊かつ 3,000p)	73	70	85

No. 1 「主体的に学習に取り組む児童を育てる授業づくりを推進します。」について

児童の主体的な学習の取組を図ることをねらい、UDL(学びのユニバーサルデザイン)※1を研究テーマに掲げ、日々の授業改善に取り組んでいます。10月9日には学校公開研究会において研究の成果を発表することができました。それぞれの時間に身に付けさせるべき資質・能力を指導者のみならず、児童もきちんと意識し、自らの学びを調整しながら課題解決に向けて活動できる場を授業者がきちんと保障すること、授業の終わりに一人一人が学びの成果をしっかりと自覚できるようにすることを意識した授業を積み重ねて参りました。今回の研究で明らかになった成果と課題を整理しながら、より一層学校全体で継続的に研究を推進して参ります。

※1…UDLとは、『多様な特徴を持つ児童生徒が教室で学ぶことを阻むバリアを最小限に抑え、すべての児童生徒が最も効率的に、自分に合った、効果的な学習を実現できるようにするための、学習環境デザイン』のこと

No. 2 「学年に応じた家庭学習の習慣を身に付ける取組を行います。」について

家庭学習強化週間の取組や担任の指導、評価がきちんと行われていることについて、保護者の皆様からは概ね高い評価をいただいています。しかしながら「宿題を進んでやらない」「与えられた事(宿題)だけをやればよいという考えしかなく、学習の基礎も身につけていないため、応用ができない。」「声をかければやるが、自主的にはできない。」等の家庭での様子もたくさん教えていただきました。いつの時代も「自分から進んで」家庭学習に取り組まないといった課題は多く出されております。それなのになかなか改善に至らない難しい問題でもあります。自校の研究テーマでもある「主体的な学習」ができる児童を育てたいのにそれが家庭学習と結びつかない原因を明らかにしていかなければなりません。学校でも家庭学習の内容や取り組み方について職員全体で検討しています。目的、内容、手立てを整理しながら家庭での学習習慣を身に付けたいと試行錯誤しています。お家の方々にも引き続きご協力をいただきながら、効果的かつ持続可能な取り組みを模索していきたいと思います。

No. 3 「本に親しみ、望ましい読書習慣を身に付ける取組を充実させます。」について

学校では、朝読書や週末読書、児童会での取組(読書月間)などを行っています。冊数やページ数による目標設定は、読書意欲向上へのきっかけづくりと捉え、数値のみにこだわらず、本を読むことの楽しさを味わわせることも大切にしていきたいと思います。そのため、児童が主体的に取り組めるよう児童会活動の集会を利用して読書推進活動に取り組みました。また、図書ボランティア“Flip”に加え、町のボランティアグループ“クローバー”の皆様のご協力をいただきながら、図書の修繕などの環境整備を行っています。引き続き、外部の方の力も借りながら読書指導の充実・読書環境整備にも力を入れていきます。

2 「思いやりのある子ども」

No	項目	児童	教職員	保護者
4	自分から進んで元気なあいさつができるように指導します。 ※児童アンケート「自分から進んで挨拶することができている。」の肯定評価90%以上	92	80	98
5	前向きな言葉かけやクラス会議による児童の信頼関係の構築に努め、児童の自己肯定感を育みます。 ※児童アンケート「自分にはよいところが分かる」の肯定評価 90%以上	82	90	95
6	異年齢集団活動を充実させ、人間関係を深めます。 ※児童アンケート「掃除やキッズタイムの時に違う学年の人と協力して仲良く活動することができたか。」の肯定評価90%以上	92	80	98

No. 4 「自分から進んで元気なあいさつができるよう指導します。」について

保護者アンケートでは、98%という高い評価をいただいております。学校としての取組を高く評価していただきました。一方で教職員からは80%という結果であり、まだまだ指導の余地はあると判断したものとされます。「自分から進んで」挨拶を交わすこと、「いつでも」「どこでも」「誰にでも」自然な形であいさつができる習慣を身に付けられるよう、継続して学校でも指導して参ります。ご家庭でも引き続き、「おはよう」だけでなく、「いただきます」「ありがとう」「おやすみなさい」「行ってきます」「ただいま」等の挨拶が生活の潤滑油になるということ、相手への気遣いや敬意の表現であることを改めてお話ししていただければ幸いです。

No. 5 「前向きな言葉かけやクラス会議による児童の信頼関係の構築に努め、児童の自己肯定感を育みます。」について

本校では、前向きな言葉かけ（ペップトーク）を通して、児童と教師、児童と保護者の信頼関係の構築を図り、児童の自己肯定感を高めることに重点をおいています。また、クラス会議においてそれぞれの思いを共有しながら、話し合いを進める活動でも一定の効果が認められています。そういった様々な教育課程の活動の中で、周りからの適切な承認を獲得することは、自分自身の言動の裏付けとなり自信ある行動へとつながっていきます。今後も引き続き児童一人一人の思いを受容しながら、適切な場面での励ましや承認の言葉を投げかけられるように教職員全体で共有していきます。

No. 6 「異年齢集団活動を充実させ、人間関係を深めます。」について

日々の縦割り班清掃活動は、校舎内をきれいに保つことはもちろんのこと、清掃中の様々なトラブルを通して対人スキルを学び、より望ましい集団の一員に近づくための活動の一つとなっています。また、異学年の児童と一緒に遊ぶ取組“キッズタイム”では、6年生が活動を企画し、下級生は自分が選んだ活動に参加します。主体的に異学年の児童とも仲良く協力しながら活動できていると評価しています。6年生のリーダーとしての働きもしっかり評価しながら、今後も工夫した活動を展開していきます。

3 「身体をきたえる子ども」

No	項目	児童	教職員	保護者
7	運動に親しみ、体力の向上に進んで取り組む活動を充実させます。 ※『岩小キッズの振り返り』での肯定評価 80%以上	89	95	98
8	「早寝・早起き」「食育」など健康的な生活習慣を育む取組を行います。 ※『岩小キッズの振り返り』での肯定評価 80%以上	90	75	99
9	メディアコントロールの習慣や情報モラルを身に付ける活動を充実させます。 ※『岩小キッズの振り返り』での肯定評価 80%以上	82	70	92

No. 7 「運動に親しみ、技術の習得や体力の向上に取り組む活動を充実させます。」について

運動習慣の形成、体力向上に関しては、児童・教職員・保護者とも高い評価となっています。この取組は、体力担当、保健担当、栄養担当の職員で結成されたワーキンググループで企画された計画に沿って運営されています。より「元気アップチャレンジ」（60 プラス）などの取組を充実したものにし、今後も継続していきます。

No. 8 「『早寝・早起き』『食育』など、健康的な生活習慣を育む取組を行います。」について

健康的な習慣の育成については、まだまだ工夫改善の余地があると捉えています。全体指導に加え、保護者と連携した個別の指導・支援にも力を注いでいきます。前述したワーキンググループを軸に教職員全体で共有しながら効果的な指導を目指します。

No. 9 「メディアコントロールの習慣や情報モラルを身に付ける指導を充実させます。」について

ネット・ゲーム宣言や「我が家のきまり」を決めて取り組むこと、学校では学年の発達段階に応じた情報モラルの指導を行うことを取組の柱にしています。「家庭内のルールを決めているが、ゲームの途中でやめられない現状がある。」というご家庭からの報告もありました。こういったご家庭が多いのではないかと推察されます。子供の実態に沿って問題を深堀りし、それらの手立てについて模索し続けなければなりません。メディアにおけるメリットとデメリットについては全体に浸透しつつあります。しかしながら、問題となるデメリットに対応できるだけの術がなかなか見つからないという現状もあります。学校では、月に一度の情報モラル指導に加え、外部講師を招いた教室を開催し指導を継続していくとともに、家庭と連携しながら引き続き取り組みを強化していきます。

※家庭の取組については、次号でお知らせします。

